Local Life journal

ローカル・ライフ　ジャーナル　創刊号
2016 Spring

in Nara Okuyamato

奈良・奥大和

Local Life Report

奥大和エリアの移住・定住にまつわる動きをレポート。今回は大和高原エリアをご紹介します。

from 宇陀市 UDA SHI　大宇陀を中心に増える古い町家を利用したカフェ。

国の伝統的建造物群保存地区に選定される大宇陀松山地区。戦国時代から今もなお暮らしが息づく町並みに惹かれ、移住する若者が増えている。古い町家を改修したcafe equbo*を営む大窪さん姉妹もUターン組。10年間空き家になっていたこの物件の存在を知り、一目で気に入ったそう。2015年には市の補助事業により、屋根や建物の修繕・補強工事を5カ月間かけておこなうなど、古い建物をゆっくりと大切に受け継いでいる。

都会から戻った時に、生まれ故郷のゆったりとした時間に豊かさを感じたという大窪さん。丁寧な接客も魅力のひとつ

古い建物の持つ空気感に新しいセンスがプラスされ、遠方から訪ねる若い女性にも近所のおじいちゃんにとっても居心地の良い空間に。カフェメニューの他、ランチや米粉パンもある

cafe equbo*　☎0745-83-0860　宇陀市大宇陀下中2229

from 山添村 YAMAZOE MURA　村の暮らしを伝える きっかけは「お茶」。

無農薬自然栽培のお茶はギフト用に商品化。Facebookなどで注文を募り発送することで大和茶の知名度UPをめざす

2016年3月に2周年を迎える「かすがーでん」は、旧保育園舎を利用したコミュニティスペース。地元ボランティアスタッフと山添村職員が月1回程度ローカルなイベントを運営し、毎回30名ほどの参加者が県内外から集まる。特に、特産品であるお茶の手摘み＋釜炒り＋ティータイムを1日で体験できるプログラムや、茶畑オーナー制度は山添村ならではの企画。2016年度は、過去に山添村に紅茶工場が存在していたという歴史のある「和紅茶」にフォーカスし、さらに魅力を発信していく。

地元のおっちゃん、おばちゃんから教わるしめなわ作りや漬物作りも人気のメニュー。楽しく山添村の文化を継承している

活動の告知・報告は Facebook「かすがーでん」
問合せは　山添村役場地域振興課　☎0743-85-0048

from 曽爾村 SONI MURA　移住者が移住担当になり、新しい視点で村づくり。

曽爾村の移住相談ワンストップ窓口である高松さんは、2015年7月末に自身も移住してきたばかり。東京勤務が長かったが、元々は奈良市出身。故郷へ戻り、地域のために働きたいと意欲に燃えている。曽爾村は今まさに、地域おこし協力隊を10名募集し、村づくりに力を入れているさなか。特に高松さんは、前職の農業新聞記者として培った知識を活かし、曽爾村の特産野菜であるトマト、ほうれん草の産地を守るプロジェクトに尽力する。

家族で移住した高松さん。その実体験は、移住・定住にまつわる仕事に直結。空き家や農地の調査で、村のことを知る日々なのだとか

農業後継者の育成のために、地元農家と村が全面バックアップする3年間の研修プログラムを実施。地域に溶け込みながら就農できる、移住者にとって心強い制度

曽爾村 移住相談ワンストップ窓口（担当:高松）　☎0745-94-2101

from 御杖村 MITSUE MURA　手に職を持つことで ゆっくり地域になじむ。

丁寧にハンドピックした煎りたての豆は、「道の駅 伊勢本街道 御杖」の直売所でも販売。その場で飲むこともできる

村の一大イベント「三峰山霧氷まつり」には常に参加。あたたかい珈琲で観光客をもてなす

森の中にひっそり佇む「森の珈琲屋」は、net販売中心の焙煎工房。2代目の森脇さんが毎日黙々と焙煎をおこなう。先代の後を継ぐために御杖村に移住して早10年。「この辺りは別荘地なので近所付き合いも少なく、自分も社交的なほうではないのですが、村のイベントには積極的に参加しています。最近では、手作り市などからも声をかけてもらい、色々な人に出会えるので新鮮ですね」。珈琲を通してマイペースに交流を広めている。

焙煎工房 森の珈琲屋　http://www.mitsue.info/

発行・問合せ：奥大和移住・定住連携協議会（事務局：奈良県移住・交流推進室　☎0744-48-3016）

本紙は、奥大和地域に暮らしている方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。

Local Life in Nara Okuyamato

Local_Life_journal_01_6.indd 1-2
16/01/04 15:52

東吉野クリエイティブ・ヴィレッジ構想

History

クリエイティブ・ヴィレッジ構想とは?

働く場所を選ばない職種、特にフリーランスのクリエイターなどを村に呼び、新たなライフ&ワークスタイルのモデルを作る取り組み。まずはターゲットを絞ることで活動を加速化し、次の職種への呼び水となることを目指す。田舎での働き方を体験できるシェアオフィスを作り、段階的な移住へのステップとして活用する。

2013年

summer
▶坂本さんが「クリエイティブ・ヴィレッジ構想」を発案
▶取り壊し寸前だった小川地区の空き家を菅野さんが発見。村が交渉の末、所有者が寄贈することに(のちにOFFICE CAMPとして生まれ変わる)

autumn
▶空き家バンク活用第1号・菅野さん一家が移住。村長と坂本さん、菅野さんが出会う
▶拠点として、シェアオフィス「OFFICE CAMP」のアイデアが立ち上がる

winter
▶奈良県地域フォーラムにて、村長と共に坂本さんが「クリエイティブ・ヴィレッジ構想」について意見発表

2014年

spring & summer
▶OFFICE CAMPデザイン&設計

autumn & winter
▶国・県・村が費用を負担し、地元業者が着工

2015年 **OFFICE CAMP**
▶3月23日　オープニング・セレモニー

spring
▶4月1日　グランド・オープン

autumn
▶来訪者のべ1100人を突破

winter
▶総務省の「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」にOFFICE CAMPを活用。テレワークとは、ICTを活用した場所と時間の制約を受けない働き方のこと。都市での仕事をそのまま地方で続けられることを実証するべく、冬の間、4つの企業からローテーションで数名が仕事をしにやって来る

オフィスキャンプ東吉野

OFFICE CAMP
HIGASHIYOSHINO

information

築70年の民家を改修したシェアオフィス&コーヒースタンド。東吉野村役場から高見川を渡ったところにあり、清流を眺めながら仕事ができる。
☎0746-48-9005　所吉野郡東吉野村小川610-2
営10時〜17時　休火・水　料施設利用料:1日1人500円　※定員10名　車近鉄榛原駅より約18km　P有
※冬季休業あり

［施設概要］　設備：Wi-Fi／プリンタ複合機
1F　打合せ室(8席)／和室(4.5畳)／キッチン(調理器具及び食器)／トイレ／お風呂／展示室／コーヒースタンド
2F　和室(6畳)×2／和室(8畳)／トイレ

東吉野への移住の理由に「水のキレイさ」を挙げる人がとても多い

まずは村の中心から元気にし、他の地区にも広げたい

水本実村長。村に子どもを増やしたいと子育て支援にも力を入れる

ずっと思い描いていたことがやっと実現できた。これもめぐり合わせやな。

か?それは、プロジェクトの対象をクリエイターに絞り、同じくクリエイターである坂本さんと菅野さんが、主体的に空間を運営していること。そして、彼らのセンスを尊重しサポートする村長や役場の度量。人の個性が息づいているからこそ、人を惹きつける魅力を生み出すのだ。

古い町並みが残る小川地区の商店街。ここを中心に盛り上げていく

村への思いは皆同じ。大事なのはきっかけ。

さらに、地元への効果も出ているという。オフィスキャンプ完成を契機に、周辺の小川地区にまちづくり協議会が発足、商店街に賑わいを取り戻そうと地元住民が動き出している。「商店街の空き家を利用して、食事ができ、直売所や天誅組の観光案内所にもなり、地元の寄り合い場所も兼ねるような拠点を作ろうと。もちろん、坂本くんや菅野くんらと連携してね」と、会長の桝井さん。「それができたら、次は教育。東吉野村の小中学校は、ここ数年県下でもトップクラスの成績。それを伸ばせるような拠点を作る」と村長。オフィスキャンプから始まったムーブメント、この先がますます楽しみだ。

ここへ来る人に、私たちもおもてなしをしたいなと

左から、川口製麺所の川口さん(OFFICE CAMPの面々と新商品を開発中)、池垣さん(移住2年目)、桝井さん夫妻(まちづくり協議会)、桝本さん(天誅組顕彰会会長)

feature article

in Higashiyoshino

1吉野材を使ったシンプルな空間。薪割りイベントやワークショップなども開催
2OFFICE CAMPという名前にも込められたコンセプトはMIX。仕事と遊び、都会と田舎、クラシックとモダン。その発想は斬新なインテリアとして可視化されていて面白い
3コーヒーを飲むだけでももちろんOK。地元のおばあちゃんが寄って行くことも

小さな縁を大切にすることで、夢が現実に。

2015年4月にオープンしたオフィスキャンプ東吉野は、コーヒースタンドのあるシェアオフィス。シェアオフィスとは、スペースの利用料を支払い、ノートPCなどで個人個人が仕事をする場所。都会では、フリーランスのワーカーに定着しているスタイルだが、田舎ではまだまだ珍しい。なぜこのような場所を作ることになったのだろうか?

「最初は、自宅の外に仕事場が欲しいなぁという個人的な欲求で」と坂本さん。デザイナーであり、9年前から東吉野に住んでいる移住者だ。大阪時代からの友人である菅野さん(プロダクトデザイナー)がこちらに移住してきた時、2人で場所を借りることも考えた。しかし彼同様、田舎暮らしを検討している都会のクリエイターたちのためにも、彼らが試しに田舎で働けるようなシェアオフィスを作れば、もっと可能性が広がるのでは?と思いつく。これが、「クリエイティブ・ヴィレッジ構想」の始まりだった。

一方、水本村長は、当時0歳の赤ちゃんを連れた菅野さん一家が移住してきたと聞き、すぐさま彼らに会うことに。その際に坂本さんが、Wi-Fi環境と物流網さえあれば、どこでも仕事ができるクリエイターたちの現状を伝える。「ITを活用した若者の誘致は常に頭にあったが、なかなか一歩が踏み出せなかった」という村長は、今こそ何かできるのではないかと思ったという。彼らとの面会後は、移住者の生の声を反映し、空き家改修補助金や林業作業用具(チェーンソーや軽トラ等)の無料レンタル制度を創設するなど支援を即実行。「来てくれた人をまずは大事にしたくて」と親身になる。

7カ月で来訪者のべ1100人突破!

OFFICE CAMP から始まる 東吉野村の新しいムーブメント。

日本各地で地域おこしが活発化する昨今、奈良県でも移住・定住への施策が急速に進められている。40年前と比べ人口が1/3に減少した東吉野村も例外ではないが、何やら最近にわかに注目が集まっているらしい。

他人事ではないからワクワクできる。

坂本さんのアイデアと村長の思いが結びつき、「クリエイティブ・ヴィレッジ構想」はみるみるうちにカタチに。オフィスキャンプのオープン後は、着実に利用者数をのばしたばかりか、メディアにも多数取り上げられ、ここを訪れた人のうち3組が既に移住を決めるまでに。

では、成功の秘訣は何だったのか。

桝井さんの木工所にふらっと訪れてものづくりの相談をすることもあるという菅野さん

ここを開いたことで日本全国、海外からも人が来てくれます。

何気ない雑談から仕事が生まれることも多いよね

左から、デザイナー坂本さん(移住9年目)、革職人・定さん(2年目)、カメラマン西岡さん(1年目)、学者・青木さん(2016年春から移住予定)、プロダクトデザイナー菅野さん(3年目)